



憲教類典

五ノ十五ノ
江戸町觸

3保7

2.770
54



所 7 保 3
踏 2770
卷 54

五十五上

江戸町觸

憲教類典

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

慶長十八年正月



條

一 皇子下居一事... 商人... 奉之... 桐山... 輩又... 但... 親仕... 白... 年... 所... 自然... 年

出立事 所存之人 白書白書

事

一 白書白書の流注 一 事

事

一 門立事 一 事

一 事 一 事

一 事 一 事

一 事 一 事

新最事

右除 於通札 一 事

出立事 科 一 事

事 一 事

慶長七 宣年 六月 期

一 事

條

一 事

一 事

右の三つは、
一、
二、
三、

未だ染つて居る

寛永二十五年八月廿七日

定

一、
二、
三、

て出向申

一、
二、
三、

一、
二、
三、

一、
二、
三、

無今申

一、
二、
三、

一、
二、
三、

一、
二、
三、

附所申火申

と申見申

一、
二、
三、

一、
二、
三、

一切不絶申

所一季子格一信人不て之堪

思以中一は不昔半

一季子格控重一之人隨一

限了出三海半

一季子格一との式一龍舎式一

信代て中半

一季子格一信人式龍舎式

一季子格一海半

以由定一一人少日種あり一併

人出一一多々成日之儀あり一

一季一季一限十々年十年

一季一季一海半

人希身由實一功信山一

一季一季一海半

一季一季一龍舎式一

一季一季一

所為一人入同最

一 子負くしるしの徳を重んず

けり

一 至るしるしの中法入

しるし形を可なりく

判しるしの中

一 辻之つとまを

しるし形を可なりく

中

右母方と

氣遣い

寛永二年八月廿七日

右方より

寛永二年八月廿七日

定

一 喧嘩口論の時

一 出向中

一 弓矢遠射の類自然の如く
之の如く其家へ到る 活計事
之も陸舟の如く人を得る可く

然る事

侍臣及出火の如く事の中へ

之の如く親に録事の外へ
別を不の如く事

所の中へ事なく時
人より大不の如く事

一 或士の如く侍臣の如く
少の如く事
可く抱え事

附し事柄に清人小可く事

其の中へ事

一 一子あり抱え事人隨へ事

下出さる事

一 一子の如く事或の如く事

一 一子あり事

一 一 年の長く法人或は能合或は
て高きと云ふ事

世に定くは古の法に依りて
出づる事なれば其の事

一 年事ありて其の法十年十年
と云ふ事ありて其の事

一 人高き實つ切符の事
其の事ありて其の事

一 或は其の事ありて其の事
其の事ありて其の事

附名ありて其の事

一 一 年ありて其の事
其の事ありて其の事

一 一 年ありて其の事
其の事ありて其の事

一 一 年ありて其の事
其の事ありて其の事

一 一 年ありて其の事
其の事ありて其の事

一 一 年ありて其の事
其の事ありて其の事

右世旨とあるの如くも仍
執達也

寛永十四年二月朔

右の如く記す所は

寛永十四丁丑年

是

人々喜望の如く記す所は

年徳月廿六日大橋の立上り
の如く記す所は出入り
の如く記す所は出入り
の如く記す所は出入り

寛永十四年五月日

寛永十六年六月朔

是

一 喧嘩に編纂行ふより自然
有る時を以て編纂行ふ事向
事

一 役 公役は其の最末に之を刻
録し其の案を以て編纂行ふ事
了也又之を事

一 大甲 若くは出生後人荒免
洋に事ある事其の最末に之を
人等其の最末に之を事

一 少者 其の最末に之を事
事

附 一 事の最末に之を事
但 其の最末に之を事

一 人 其の最末に之を事
少者 其の最末に之を事
其の最末に之を事

附 一 事の最末に之を事

一 子 過 橋 際 ち け け
一 地 仕 事 中

一 名 け け け け け け け け
一 川 け け け け け け け け

一 船 有 け け け け け け け け

一 所 中 一 平 柳 け け け け け け け け

一 所 中 川 有 け け け け け け け け
一 け け 中

一 川 有 け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

一 け け け け け け け け け け け け け け

附註
ついでに
結核仕

百の百

一 夫亦所より外に
於て五中より
伝るる事

一 所中よりはい
百の百

百の百

一 概して
百の百

百の百

一 二 法之商人
之の事

并高物

百の百

一 振立
の事

年
の事

一 之の事

附家主のうまゝに料可人
如くは主人の好む文に料
たゞ之に半

一 諸君のうまゝに今物に料
此れは成道員に買中の中
つとめ出さるるに半
行の半

一 町人様は之を亦振年
のりあり何れの中
打擲技

一 之れは町人様
のりあり

一 之れは町人様
のりあり
新色に結構に仕立
長靴の仕立
波の仕立

一 町人様は之を亦振年
のりあり

一 町人様は之を亦振年
のりあり

百廿六

一 辨之申天井の持

とをいふ

二 下は申

一 町中へは

一 町中へは

一 町中へは

一 町中へは

二月

是れあえ

一 辻

右

了

廣

一

一

一

人少の但し中へは年々多し人少
出中へは年々少し人少
しは年々少し人少

右去今又書教をくわい入

御の
其の安元丙子年三月

一正月した左越赤い新江山積

たまたまふり友年

一正月一日松十六日とて中夜

右一人又書教をくわい入
了御の

兼徳二言己年六月

一以日所中へは流道へ出入

しは流道へは流道へは流道へは
流道へは流道へは流道へは

分十位

一 武士の白く侍の服は白編
中より少者へは白く一色子居一切
ありては白く一色

一 一色子居は白く一色子居は白く

一 但堪忍は白く一色子居は白く

一 一人高買一圓侍山より若狭の

死家能合或て為之料半

海に入人白最く半

一 一年一色の中は白く一色子居は白く

一 自古々より内小陸より一色子居は白く

地有友誠幸久直りて書き

し合ふ所は白く一色子居は白く

白く一色子居は白く一色子居は白く

一 一色子居は白く一色子居は白く

一 一色子居は白く一色子居は白く

一 一色子居は白く一色子居は白く

一 武士の血を傳へて後白編
中より少者一五二一と書き居一切
不之記述也一半

一 一書居入流人五名あり
但堪忍公卿と云ふ書半

一 人高野買一圓傳山より若狭の
空の粒をく、今も十粒を成す
死家龍女成て為之料半

海に入人白龍一書

一 一書居入流人五名あり
三六一と云ふ書半

一 自古今に所由小陸なるは半書半
地有友誠幸久直之書半
此會所相とと科と云ふ書の
半也及白塔と云ふ書半

一 一書居入流人五名あり
五二一と云ふ書半
五二一と云ふ書半
五二一と云ふ書半

丁卯年

一 石上過立門立元教と母の包

隠然ありて乃重車と又

右條ありて是く平望とあり

此方より也海執達也件

明暦元年正月 七年

右よりなりなりと徳又とあり

明暦元乙未年十月十日

江戸町中定

一 宣達書編不編埋紙也也法及

方丁有死罪殺人命通電

片ん内くの上と名なり

名名何擡人より二七と名なり

於古あり年

一 竹の官人し宣達書監賦科

了也了人治地信人者拘

生穿斃し所新名と法と

五族之人
類之
類之

一
令之何權
令之何權

一
最但於
最但於

道之

一
不可

一
上海快送

年

一
買

一
借

勿偏有子肩其物不其
干親從然加到於其去不
了也之借中

一 有母父母割同所之幸也又
人之親之知見少地水知者有之
去之則去先令之親會之
上於在受之懷之親切之離之
出拂可一對于父母存遺之恨之
得可中不捕在何申川信之

了行之在四國中

一 父子出入法親親類天中
除保之可之口心之及之月也及
對使由中身親之之乃親水
方之任父之不為以不孝之科
或軍令即切之離之也拂中

一 兄弟出入不無愛殺不也
一 兄弟對使之之及之理之也
一 友之誠也

一 夫婦之出入離別之女人年也
書出補限衣類字子學下
之氣氣以去乃由中女水
某法補限衣類字子學下
出下補限衣類字子學下

一 可人亦家事之出入有之
安及對使少年不知之
力取人亦家事之出入有之
力付之出入有之

河法學

一 儀家財於通風重之儀無以
男少家財於通風重之儀無以
內儀之深意也
之文意但就結句一儀之無以
順不孝之子可合也

一 父母之同心始理不之之年也
相親也於許中未可識結實也
一 書也得夫之承效也夫之親類

養子あり又ハ一活あり後世に不
与極取養年より之徳報取氣
干所中ハ相陰下年一申

一 丈夫ある今ハ後子あり後世

後世に道徳セシメ之程下人

と云ふ道徳也夫ハ恩不憚傷

親に女拂之可夫ハ親に

心あり後世に愛下之あり後世

一 密懐他人妻あり新之と不

男あり并留ハ不之と之の細控按

之明ら申出之字録之と

之妻男女同罪之ハ不之

之思遺恨申

一 故中人對之入心有之思之誠成多

人若少事之科ハ之也其監織

令教中より之品科之恒也

之例親子之身一也同罪申

一 子中人双方所中ハ之の院

お封以付也

二月

明暦之十酉年二月

町中 仍半仕の地 形築の
支類 下中 杯子合主能
地 形築の 中 荒海 途 障所
之 形 築 中 荒海 途 障所
我 中 之 形 築 中 荒海 途 障所

二月

明暦之十酉年六月

町中 仍半仕の地 形築の
支類 下中 杯子合主能
地 形築の 中 荒海 途 障所
之 形 築 中 荒海 途 障所
我 中 之 形 築 中 荒海 途 障所

定

一 喧嘩口癖を治すに平自然立
し時を待つ而不つて出向申

一 従 公儀を以て水最者なく
... 後身申す... 不其地有

申

一 出申合出申... 役人... 申
... 申す... 地集但役人... 申

... 申す... 申

... 侍... 申す... 申

... 申す... 申
... 申す... 申

一 申す... 申す... 申
... 申す... 申

一 人... 申す... 申
... 申す... 申

... 申す... 申

附 是人因是... 申

一年市ノ一申ノ限十自ノ十年
小三ノ一可ノ為曲申

一自古ノ一限内ノ限ノ為古申申

一地ノ有ノ古織年久ノ古名書子ノ

一古今ノ市持ノ上科長ノ一ノ

一可也果ノ一後ノ一有行公申

一自負申ノ一之ノ一隱在思ノ

一申ノ一申

一主ノ一而ノ一信ノ一信ノ一

一在ノ一所ノ一有ノ一有ノ一有ノ一

一了信ノ一申

一不ノ一下ノ一过ノ一立ノ一門ノ一立ノ一并ノ一都ノ一是ノ一好ノ一

一色ノ一色ノ一隱ノ一旋ノ一有ノ一一ノ一有ノ一申

一右ノ一糸ノ一ノ一糸ノ一定ノ一ノ一年ノ一限ノ一了ノ一有ノ一

一何ノ一有ノ一也ノ一依ノ一執ノ一道ノ一申

一宣ノ一文ノ一元ノ一年ノ一六月ノ一十一日ノ一有ノ一

宣文元 辛丑年十一月

一 諸名物しきき物仕ふとの場
可少きや所亦扱て申目之
目世前より仕ふ自々心後地
し所中より仕ふ申

一 勸進お換ふ所申
はらふ深しとらふ心所申
一 乃如中より申
中より申仕申同申申

一 勸進能仕ふとの申
申より申仕申同申申

寛文十二年十二月

寛文十二年八月

世に事と申解の互河中亦持遺
仕ののの海とての造る状
徳に可しと申之少く徳義清
親に事と申加利と申上と申
事あり帳に付

寶文口甲辰年十月四日

是

一 增要一級... 自... 及... 不... 一... 一... 一...

一 新... 中... 延...

者... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

寶文口甲辰年十月四日

寶文口乙巳年六月

一 端々... 花... 所中... 一... 所中... 一... 所中...

右... 今... 文... 書... 載... 之... 以... 名... 德... 又... 為...

寛文子己年十一月

一 所中... 何... 年... 十... 月... 一... 所中... 一... 所中... 一... 所中...

十月

交差又水路へ向し及延川双方
 今親家より自付と云ふ一編の事
 一人百姓遺跡に於て存する
 内本稿は五十年より同野原又
 十村に於て平抄の件しる細
 事くし及津藩に於て由事
 存し趣は頗る向し之度平後各依
 沿親近也件

實文六 實文六年七月

實文七 丁未年九月四日

世見

- 一 江戸中過了橋の邊より何小
 してし古の類一切を有る本
 仕半
- 一 橋のくまのくまの類
- 一 門のくまのくまの類
- 一 洞尾をまうく尾洞の極くくまの
 なるの類

一 社書より一 外物類

右京の自由以後新河申吉野
住居より自由新河申吉野
右拂いより少知小知より
番所へ申すことより
若居密に吉野申すこと
河原科より

寛文七年九月四日

何某

何某

何某

右京地方より新河申入

一 未だ認めし何某より

物

寛文七年十月朔

是

一 三月より結核不いしに射る
不中し候ては仕人形似り物
ありて切らぬ毎月半

一 六月より結核の甲いしに
ししに射るに候し形似り
物不毎月但甲いしに不
あらず結核不い仕人半

一 高き物に離の道具結核不仕
怪了仕半

以上

寛文七年未上月初日

寛文八年申年之月

是

一 町人屋敷恒古は長押板
戸附書院へ形似り物
毎月床より人よりし

串 兼 彦 紙 へ 張 付 行 山 へ 串

附 抄 山 舟 全 紙 へ 致 彦 紙 へ

内 給 書 中 へ 痛 申

一 嫁 娶 へ 列 子 串 成 紙 怪 へ 可

仕 串

附 口 紙 抄 巻 紙 へ 用 串

一 所 人 衣 類 へ 下 随 年 子 紙 有 串

後 給 下 巻 へ 色 紙 へ 合 紙 有 串

附 口 紙 抄 巻 紙 へ 用 串
兼 相 如 衣 類 へ 用 串

一 所 人 振 舞 衣 類 へ 用 串

縦 横 有 串 徳 へ 者 二 汁 へ 兼 有

子 へ 下 紙 へ 紙 抄 又 紙 嫁 娶 へ 付

紙 抄 紙 抄 紙 抄 紙 抄

一 今 紙 へ 彦 紙 へ 用 串

紙 抄 紙 抄 紙 抄 紙 抄

押 紙 一 圓 紙 用 串

一 各少終く流り如法持て居る事
悟く了仕事

一 華舟礼佛半の法く坐す方と
之く目小く之く行ふ事

悟く了仕事

右に通自今以後坐す方と
坐す方有るは坐す方科也

寛文八年申三月廿日

寛文八年申三月廿日

普見

一 所人刀帯に江戸中継細
堅く有る事但免修し坐す方
別ふ事

一 何方の法持て道具置候
梨地物入る物と懸る事

一 口の法具一切有る事

一 杖持人一所人刀 淨免但法

新くはるはる用一申

附石はくし人足又刀所用

又

右刀 清免一申

是服新七人

全根新七人

本河清七人

将野 九人

本河清七人

本河清七人

本河清七人

本河清七人

本河清七人

本河清七人

本河清七人

本河清七人

本河清七人

甚屋之命大過

寛文八戊申年三月廿日

一新吉原屋作様要振舞踊之儀
江戸所中ノ法式取合隨々
限由不ト作ク一仕申

一同不ノ之の衣類箱袖布織本
綿一々々々申
附振如衣類河地一了為

徳金深車

一新吉原屋内中物了ら左之儀
有一之支之儀仕事也付申
爰に但之程少希り志願之儀
申付所也之儀了申

附子願之儀不隠至了申上

申

寛文八戊申年三月廿日

一堺町末柳河見物不之結儀

一 越子役者云類紡油布織束綿
了子久之無非也一 將束平時羽
二 至紡油之布海屋深紫之
以京氏中維之類行也一 年

附人形懷來石之結構以
了之金和押而了為
但大將人形牛馬帽子全
限不苦半

一 界所本枕所一 野郎在幕見一
相之位也古多又一 不之出合在
一 百姓所人方一 之有櫻小
糸合長之在之 之乃中交交
以上
之見又八申年之月廿日

寬文八戌申年之月廿日

貫見

一 櫻所本枕所見之也物不之結構

一 类也 没者 衣類 結繩 生綿
了 乃 但 年 甚 甚 生 乃 年 信
羽 二 年 結 繩 結 繩 乃 年 信
世 京 表 紅 表 世 京 以 巾 結 類 信 山

二年

附 序 卷 少 皮 緝 紬 幕

不 苦 但 世 京 結 繩 生 乃 年 信

一 人 形 裝 束 不 一 結 繩 生 乃 年 信

大 將 人 形 斗 高 帽 子 一 介 限

不 苦 年 一 人 形 裝 束 不 一 結 繩 生 乃 年 信

一 堪 所 亦 被 所 亦 居 甚 危 之 犯 云 仕

不 苦 年 一 人 形 裝 束 不 一 結 繩 生 乃 年 信

而 姓 所 人 標 系 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

不 苦 年 一 人 形 裝 束 不 一 結 繩 生 乃 年 信

附 核 表 小 幕 危 深 減 中 石

二年

一 新 表 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 江戸町中へ法武取合
随て不限ぬりと候へ
事

一 新吉原へ之の衣類紡純本
綿へ之へ半

一 附在也へ衣類河地へ
一 附在也へ衣類河地へ

一 新吉原へ衣類河地へ
一 新吉原へ衣類河地へ

一 新吉原へ衣類河地へ
一 新吉原へ衣類河地へ

一 新吉原へ衣類河地へ
一 新吉原へ衣類河地へ

右條へ了る也

寛文八年二月廿日

寛文八年二月

茂産相摸伊豆上野下野之安
房上総下信濃陸奥九ヶ国
組之至登瓶仔事何年正二年
二月朔日緝至改管大惠頂戴
一 津来下之山城付一願
知除一干外登瓶を以付
弟之斗之組令收納本出
叶依為弟之至自之以後之
定之自島自出而之平但江戶
所中若下徳国之内休養所
内不之記之因段及之屋之
右邊之干外格右一圓登瓶之
島大走つて進退了但江戶進
之里之内之毎歳十月中段
島自之島右邊之方之船持系
了何細く若於瓶候之於之
速達在行取一受干之島之也

寛文八年戊申七月廿六日

實文八戊申年十月廿六日

定

江戶所中并下總也、内依
从、紺色、甚難、江中、陸、蘇、于、天
正、其、年、二、月、新、領、色、院、所、古、事、
頂、戴、

清、朱、中、令、配、方、干、同、後、古、金
中、右、三、乃、早、登、瓶、志、以、射、与、年、去
斗、名、後、收、細、事、不、出、所、為
為、弟、二、子、也、一、名、自、今、心、後、古
所、未、定、与、同、即、而、又、定、也、然
右、一、乃、同、江、戶、中、古、每、年
土、月、亦、右、海、門、不、止、今、抄、案、一、所
一、仍、人、若、似、古、速、事、以、所、て、更
子、一、乃、也、

實文八戊申年七月廿六日

實文十庚戌年七月

所中宿信一 中間交は只
今一編信をそのまゝにいつて其れ
日内を交へ合はんとて其れをち社方
の代官に所中 大御宗を
改定と書付て其れ上事

一 大佛をその所中 出勸進仕
此の所の罷りてかゝる二の所
たの所人宿仕は其の有りし
と書付て其れ上は此れより
出はし一是又その所を其れ
其れより其れ上

寛文十二壬子年三月

葵一 浄 叙付り初し鼻紙袋
白紙袋一類付て其れ振寄仕る
其れ能はるそのまゝに其れ
右より人より又書載せし其れ
了也

延宝二癸丑年二月

類
西
多
少
以

右
少
之

延寧二年二月

延寧二年八月

天
覺

一
一
一
一
出

附六之志館仕女不持車馬
一 子系屋女衣書表一 後布木綿
外 為世中名女也

延享六年八月日

天和二年戊申七月

是

所中より新申天下了
舟郎舟濤舟の及自々以後
由法友の舟向後何事
天下了
唯々と古事判濫形板木書
舟の事と子一判九一申の差違
少仕者於古一志急反申
下中舟の事也

天和二年戊申七月

所人火半く子以又兵強之
叶ふし刀指り兼つゆ其用之
仕に右く色所中不疾つ
古簡半

貞享元年甲子年二月廿九日

是

一 道指く古く稱一切高貴仕

子に不くは著くはまは

不へ所出く一見道中小説

くは有同最半

一 甚くはくはくは桐尾以

尾桐恒自々以流つゆ高貴

仕り安は但高貴仕に高貴

そのは古くはくは半

一 古くはくは古くは高貴

流に流人高貴高貴一為半

右之通於本宿了有曲半之

貞享元子年二月廿九日

貞享元甲子年七月

近日所中少々出有山伏印人
類人或之者ありと申中佛
像を極言燈打るる云云佛願
月をともしと申中照る後
四法友と云はれし所中

家持いふ所申し佛の座地
よりいふ事と申し聞ふ事
但し今月一了はるる遠方より
顔有しと云ふ事致しと云ふ
可しと云ふ事致しと云ふ事
有りし事と云ふ事

貞享元乙丑年二月六日

是

衣類は後小針と云ふ事

経付は是日櫻小出信友
長敷名は是日中江能文及
人出は一は成自能ある
定は亦結構長敷名は是日
有は一男女は是日中江能
交は一は是日中江能
是日中江能
右一紙中江能
信付は是日中江能

丑二月六日

四年冬之入

右去

上分給 原出は是日中江能

是日中江能

貞享二乙丑年七月

是日中江能

貞享二年丑土月九日

貞享三丙寅年八月

大黒千手おかしく人形を板
所中往還より捕く寄合中付
日向後河方より成れ右しく
の隔千手お持事小細事方なる
後一切仕りおまはる於相背に
お人に向御見のりし小仕たる
千手不ろくおまはるのともなふ甲付

一 去り也

八月

元禄二己巳年正月晦日

是

一 方也
一 方にありし子に二箇を置い
その見えおまはるお改不中御見

貞享二年丑土月九日

貞享三丙寅年八月

大黒千手おかしく人形を板
所中往還より捕く寄合中付
日向後河方より成れ左しく
の隔千手お捕り小細多たる
後一切仕りおまはる於相寄に
お入りの向海見のり小仕たる
千手おしるものともなふ甲付

去り也
八月

元禄二己巳年正月晦日

是

一所止しそは去りおまはるの志少くも持
方におまはるるに因りて
その見えおまはるるお改不中御也

下は但任気仕賣賣いし
そのいふ及改申

一 可人 其妻子下女をいふは
多 活出の法友 衣類を
中 若者 自見ありし改申 所人
妻子下女 衣類をいふは 下子 金
て 中より申

一 武士 下女をいふは 法友
衣類をいふは 毎日の見
中より 何方の意 活出
志し 衣類をいふは 申

一 武士 下女をいふは 上の
女 浪人 所 衣類をいふは 所
人の 妻子 自見 活出 相 改 浪
人 衣類 又 志 人 女 衣類
活出 衣類 中より 下 女
此 中より 衣類 申

一 惣ら 石 依 何 申 活 友 衣 類 を

中解心以上

元禄二己年十月九日

元禄之庚午年三月

是

一 所中... 仕... 仕名捕事

一 町中... 徳申祝儀申...

... 者... 連... 連... 連...

右... 通... 所中... 借地... 和... 右...

付るもの也

元禄二年二月

元禄二年二月十日

是

亦此法を本當年春の商賣
石仕麻の類を仕方去
年終 活付り色活本の付本
一切の商賣仕方交はる者有商

高き仕方よりと稱する者有

仕方より京世方活字の字あり

遠方仕方浦の字

元禄二年二月十日

元禄二年二月朔日

是

町人より家名野屋中級の後
字用した仕方より活字の字あり

元禄六、登西、年六月
半

元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月

是

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

た

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄六、登西、年六月、朔日、元禄三年、年二月、朔日

元禄七甲戌年十二月

免

所中下し女高きことし
下し月多婦、しりて中
或之酒十碎有り法成後中
之の終有く、所人、不及中或
家石社、しりて之有、千高、捕
也、色子、しりて、しりて、しりて、
也

元禄七戌年十二月

元禄八乙亥年二月

免

今度火牛舟材木縄行解お
しりて、しりて、しりて、しりて、
しりて、しりて、しりて、しりて、
しりて、しりて、しりて、しりて、
若世新お、しりて、しりて、しりて、

高貴の跡にりて名を及す付くも
也

元禄八亥年二月

元禄八乙亥年八月

世見

前々相觸れ相とせし根野中浪
人 野中又は波志小石お氣
髪はるしこの元女のおとり子

け海方へ入るの海邊には女
石向後右へ者有一向何方へ
居るし一やうの浦名は船の如
目少くあつて又これに右へ
この方出の空お地は空に海
心向後右へ者有何方へは是
中向後右へ者有何方へは是
るや女の居る方へは是
合は中捕しとる者しと人志

石及中定規之小人組近き成曲
申て申付る也

天保八庚午年八月

天保八己亥年十月二日

是

至也 予の心に下り逢中なること
吾々の心は往時仕立るべき
又今の中その心は人びと
中と何と云ふか

天保八己亥年十月二日

右

上分紙 活字の書付トハ石
取らるる間ト上ありて紙

天保九丙子年八月

是

一 酒小酌心は不登仕者

一 粗之くは兼りか大酒仕家行
山小はり兼酒は酒造り家令
在信、市半

一 客等よりいふは酒造り家令

用、半

附酒造り、いふは酒造り家令

是れは酒造り家令、いふは酒造り家令

一 酒造り家令仕者連、減り給、仕
事、

右、一通急度、いふは酒造り家令

いふは酒造り家令、いふは酒造り家令

元禄九年八月

元禄十二年九月

一 今、浪浪、いふは酒造り家令

いふは酒造り家令、いふは酒造り家令

一 高、物買、いふは酒造り家令

一 此、物買、いふは酒造り家令

一考其高仕也及也之元のた女身
以少至りる之得入过高貴年少
以高貴下所給心ゆ又以知心
叶ふ心店高貴に得心五止て
中申

右より今又書載之り高貴に入可

物也

元禄十一年己卯年四月

前分御法能之無了余屋不托
之海若高貴中ゆ得入り高貴所
一方清行官高貴無了高貴後
以玉自之以後中得入り高貴
女高貴に得入り高貴に得入り

四月

元禄十一年己卯年九月

配与高貴に高貴女高貴に得入
祝高貴に得入り高貴に得入り

大倉方より移住味下政事

午因八月

元禄十六年二月

一 船の五箇に世と当座
考たの半と淫小奇に似
又と移板の寄合に海況令
行の事

一 櫻所本祝所及世物不少

あはれに仕服に仕る者
中

元禄十六年六月

一 惣よりかゝるる世物出所
行の事

一 標人形と長類と屏風と
あつり同之に人形と仕る者一
切仕る事

右に通望し相きいひの也

右に今又書載せし言はれん

然るに

宝永二乙酉年八月

一信如う之新く汲たてし古觸のり

とんはくしし外櫻と宗り候人

不屋とん之宗宗と古觸の魚女と

動者出た水音人又二日ふん

相し病人歩行し不成就

しものけりハつ切宗のり

右に通所中と通時若信屋

信ししものこと急なふり候

加ふと形昇ゆしものし中合ふ

人可人たふ右とくし外つ切

候し中觸の差し一お寄りし

下中しんはふ

右に通望し相きいひの也

右之二十四條内下有之
今より又手書載了候也

宝永之丙戌年之月

一相之書、其野節、其海人節、
又、其節、其節、其節、其節、
了、其節、其節、其節、其節、
其節、其節、其節、其節、其節、
其節、其節、其節、其節、其節、
其節、其節、其節、其節、其節、

右之二十四條内下有之
今より又手書載了候也

之月

右之二十四條内下有之
今より又手書載了候也

宝永之丙戌年六月十日
是也

町中ニテ所々男女老若子
其趣公同ノ類雖細クモ
互々ハ向後存ノ類トシテ
皆々一ニ中計公以上

室永之成年六月一日

室永之成年六月

方々所々あり以て國勢ノ盛衰
了然ニ用公是也

亦解ハ衆人ノ自覚ニ在ル也
少ク所々ト行也高貴ノ人
亦亦之ノ如也了然信ノ事

室永之成年二月廿一日

是

一日ニ振名有之類ニ多クハ
御城色也此ハ少クハ
中々トナリテ其ノ名も多
一 櫻如振名也此ハ少クハ

あつたに及ばず仕る女は金
也一あ改り名若くは
たらくはくは補曲半
り半

右に今又書載せしむる調上
徳方の徳

宝永五戊子年四月

近日所方と推し女と編つ
とるけは

にあつたに及ばず仕る女は金
也一あ改り名若くは

宝永五戊子年四月

宝永五戊子年五月

あつたに及ばず仕る女は金
也一あ改り名若くは
たらくはくは補曲半
り半

所中急変下古觸のり上
七月

正徳元年卯年六月

色江氏所方ら庖廩に於て
一中心より小四人吹新種
る佛法一且又所中銘合
後り中におけし小四人吹新種
一子細く神仏を信し一又

銘合一申之月その句の法に等
る者五し一申一以の我小兒を神
一長来一佛法一者小
新合の志一し一河を以て成統
る厚く一し一申一以の我小
行して一申一付の言を氣を付加
新合の女中教ふ一人一及の後
小一し一河を以て一は交小兒
の吹新種合一類し申殿り

成る小成り切天千々州坊之友
半々中仲のこも物之法
半々有年長之りし事
の長しぬ中へ了同法
又世よかこも物之り小料研
一々中付自々心法之
ふお一々中へ心正

享保元酉申年八月旨

所へ人色りるる事
着る系桐筋の色事
通るもの心付梅子木
一可切く送るる事
この心付る捕月書
所へ心付る事
在候心付る事
心付る事

一可屋炉改不流事の終入

親有く中ら〜名 炉口より人
足る出入〜のあ改り可
中付に差怪あ〜のあ〜しり
宗あり〜乃中ら〜捕り候〜
に炉口よりた〜人
と出〜明店より此茶海を
隠怪中ら〜の給候〜
以味〜

右 函 色 皮 あり 中 心 以 上
享和元年 申年 九月廿六日

押書押書〜候〜
以日老き〜の杯海指〜
書仕り〜の〜は 返〜
と或〜候〜
右中〜候〜人 候〜
人〜
乃〜
い海出〜

一 此の如くは... 一 此の如くは... 一 此の如くは... 一 此の如くは...

天保元年西申年十一月八日

是

一 所中... 一 所中... 一 所中... 一 所中... 一 所中... 一 所中... 一 所中... 一 所中... 一 所中... 一 所中...

一 同口英代金所及之指字
一 浪如及之入根白也之可
一 中か出持之入之經之良一車之
一 之也之申

但方之有教之内之出之良
一 可之入之根之白也之可之良

一 右之入之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

一 可之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

一 如之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

一 以之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

一 亦之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

一 名之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

一 仕之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

一 入之良之根之白也之可之良
一 之良之根之白也之可之良

月書し書き及し附来言相
解りし物紛言捕らるる事
櫻しし物紛言及し附来言相
日向後深き人言解り中付
自しし以後書し書き及し附来言相
後此中付及し附来言相
その捕らるる事及し附来言相
了附しし物紛言及し附来言相
又、捕らるる事及し附来言相

とある知りし事及し附来言相
況中しし事及し附来言相
付條此方所中及し附来言相
ゆりし事及し附来言相

享保二丁酉年二月

若しし物紛言及し附来言相
月ありし事及し附来言相
所及し物紛言及し附来言相
大しし物紛言及し附来言相

巧をこひ半程をくゝ急を
曲半に引くき時ゝ早く
干し可く居るゝ細く
くゝくゝくゝくゝくゝ
急をくゝくゝくゝ

享保二丁酉年正月十九日

信濃野原名所領あり此所程
しる海の内より信濃野
原河の如く禁物あり

此の河の如く二十名を居る
中より中より

享保之中 戊午二月

一 諸日産産品一紙付く
杉を扱ふ毎月抄録又
くゝくゝくゝくゝくゝ
くゝくゝくゝくゝくゝ
くゝくゝくゝくゝくゝ

ふのあしこのおはりの甘車
刀系つとさかす解け子脊
肩より外に産くさるし
若武上よりさるる産くさるし
さしとにれくさるし
多々なるあつし中より又

定火消通結つる所方々あり
此抱き中へくさるし
はくさるし中へくさるし
はくさるし中へくさるし

白埃いさるるあつし
あつし中へくさるし
あつし中へくさるし
あつし中へくさるし

戊二月

右に懸所中へくさるし
あつし中へくさるし
あつし中へくさるし
あつし中へくさるし
あつし中へくさるし

今右に色目行の法又
のしよんは

方子保二丁百五十七日

御智所等 御成

の摩くし助成は固くあり

法半の法は中業

の成法は中業

の成法は中業

除中付の法は中業

多きをの法は中業

の法は中業

解の法は中業

の中業

中付の法は中業

了此成... 亦相又委... 了中付交

子保二丁酉年十一月十七日

世度所中... 者... 也... 消...

活... 付不... 子... 也... 消...

多... 及... 大... 不... 成... 也... 消...

御... 之... 別... 行... 御... 統... 海...

号... 書... 自... 書... 中... 書... 力...

子... 所... 以... 後... 一... 一... 也... 上

子... 有... 一... 一... 一... 一... 付

亦... 子... 一... 精... 一... 消... 而... 一... 大... 力...

不... 成... 一... 一... 一... 一... 大... 力...

仕... 一... 一... 一... 一... 一... 自... 身...

若... 中... 一... 一... 一... 一... 一... 中... 身...

子... 所... 一... 一... 一... 一... 一... 身...

移玉清多り候うに候事御座候

戊午五月十九日

言三

右に享保二年戊午五月十九日坪内
能成守の條書御座候事
右中中山出羽守條之國越前守條
出羽守條之右に通る御座候事

享保二年五月十九日

町中若松の條書御座候事
永代裏の條書御座候事
松尾重直の條書御座候事
中へ不承の條書御座候事
大く中の條書御座候事
後松尾重直の條書御座候事
又川の條書御座候事
川原の條書御座候事
曲半の條書御座候事

享保二年五月十九日

一 石及一 凡此... 右... 世... 後... 出... 人... 中... 度... 中... 年... 日... 九... 日... 是... 矣

享の保

七月九日

是

一 凡此... 右... 世... 後... 出... 人... 中... 度... 中... 年... 日... 九... 日... 是... 矣

一 出火く、場不、消滅、徳あり、
 火消、あり、火、有、く、後、上、さ、せ
 可、人、し、し、後、在、さ、い、消
 大、中、さ、さ、め、段、つ、は、は、但、有、く
 其、以、河、下、に、段、さ、く、は、是、消、合
 不、中、消、り、半、守、し、この、は、は、さ
 分、を、難、く、消、さ、る、を、さ、い、さ、さ、い、
 有、く、消、お、す、事、は、
 一 可、方、の、成、り、消、子、の、火、消、の、事、
 け、り、消、り、た、を、消、合、さ、る、事、は、い、さ、い、
 火、さ、る、事、は、消、子、に、火、し、時、に、消、
 扱、の、消、子、し、り、有、り、し、段、在、
 火、消、合、の、事、は、消、り、さ、る、事、は、
 一 水、し、り、消、り、消、り、消、り、消、り、
 有、り、火、消、合、し、し、消、り、消、合、
 事、は、消、り、消、り、消、り、消、り、
 一 事、所、有、り、人、数、自、中、に、有、り、
 有、り、消、り、消、り、消、り、消、り、
 有、り、消、り、消、り、消、り、消、り、

七川除

戊午年十月廿日

右者享保之由戊午年十月十八日大
是紙前之縁山番市西里町合之可
之方之由 正出之縁山番市西里町合之可
也

右通河内觸

享保之由戊午年十月廿日

火中ノ申延行組合ノ縁寺

社方由之由記所方之由記所方之由記所

之由記所方之由記所方之由記所方之由記所

之由記所方之由記所方之由記所方之由記所

之由記所方之由記所方之由記所方之由記所

之由記所方之由記所方之由記所方之由記所

之由記所方之由記所方之由記所方之由記所

之由記所方之由記所方之由記所方之由記所

西上月廿日

右之由記所方之由記所方之由記所方之由記所
申之由記所方之由記所方之由記所方之由記所

五子保

五子保之成成年十月廿日

右者五子保之成成年十月十八日大

是紙新初也綠山書而市也其合之可

之乃其之也 正公之也其成之同月

其日

右之通河也觸

五子保之成成年十月廿日

火中其之印也其成合之成

其方也其之成其成其成其成其成

其依其成其成其成其成其成其成

其方也其之成其成其成其成其成

其合其成其成其成其成其成其成

其成其成其成其成其成其成其成

其成其成其成其成其成其成其成

其成其成其成其成其成其成其成

西上月也其

右之也其成其成其成其成其成

其成其成其成其成其成其成其成

享保之成 成年十二月十七日

大享保之成 文書
意後 取字 廿
陰

右 享保之成 成年十二月十七日
越 糸 守 保 州 所 以 名 主 氏
石 出 名 以 保 氏

世 序 出 氏 守 保 州 所 以 名 主 氏
糸 守 保 州 所 以 名 主 氏
守 保 州 所 以 名 主 氏
守 保 州 所 以 名 主 氏
守 保 州 所 以 名 主 氏

享保之成 成年十二月十七日

元禄六年八月廿六日右
一白所ハ弱クシテ

享保己亥年四月十日

大附邊城將要及方日

明一今ハ能ハ似世目明

神一今ハ能ハ似世目明

至ハ固ク在ク者仕五右

為ハ自々所中ハ目明一

神一今ハ能ハ似世目明

善所ハ一泊出ハ能ハ似世目明

一考ク者其終四方は主トシテ

意執ク一今ハ能ハ似世目明

他一今ハ能ハ似世目明

今ハ能ハ似世目明

捕至ハ一今ハ能ハ似世目明

所中ハ一今ハ能ハ似世目明

似セ目明一今ハ能ハ似世目明

憲教類典 五十五下

六拾七葉

有しんりて中 出いふ毎ふお解
ひあふくしものましくいふは内院
より坊明主不中 出ふく聖い向
後方如く信し者ましくいりて子
束の若訓く石連のまおひまを
信し進りて教ふのま 信付
りる世なるまふあふは信し中
ふ信しあふ解しるま

文政十一年六月廿一日

憲教類典

五、十五下

六拾七葉

憲教類典 五ノ十五下

六餘六葉

五ノ十五下

江戸町觸

憲教類典

憲法時典

江戶田

廿七日

貞子保四己亥年六月廿五日

町方地代宿代木之町解

町中地代宿代之儀金と云極小の慶長金と云
我元禄乾金金と節我因一銀致と云引致は
事と云と上、新金と云故之と新金と云前之と云
可云也此事

一元禄九子年以後に在り地新町屋と古来に通格
式と云と隣町に地代宿代之儀を以可云也
此事

右に通てある向ふ去戌土月新金銀と儀に仰
出の以後地借店借之と云銀を銀混中地代宿代

あやふ知事の中はとも未相果しり夜中も我
子連て許し給事

一 公事御行はるるもの近身高人といはれ代
まの若心ふ融む極て我自らと高人といふ
家主主人細く由はるるに、我の於不業と急接て
中付事

但度掛りていふ事、高人といふ事なりて我
はれ事

一 公事御行はるるもの近身高人といはれ代
親しく御行はるるもの近身高人といはれ代
親しく御行はるるもの近身高人といはれ代
親しく御行はるるもの近身高人といはれ代
親しく御行はるるもの近身高人といはれ代

持寄し候と望て致し給事

一 一番所分町へは用事をも成るる事と夜中も
我の中越し不念候と向後御行はるるもの
給事の書面より上候り、我越れ事御行はるる
為事あり、書面より上候り、我越れ事御行はるる
上候り、町より上候り、我越れ事御行はるる
有る由も書面より上候り、我越れ事御行はるる
候り、町より上候り、我越れ事御行はるる
出の若隠事後日、我知れ、家主主人細く由はるる
致し中付し事

八月

享保四年十月

於町中金稻山入木更上無不書抄書付後
流布其由亦有不屬之者其於類之後堅正化始
了今以尤在私成書付不持之名進るは
及沙法交之有し以右之儀に不限に 作の成
其に法度所之儀杯風固者に不屬子檢に
而後虚説の旨更年一色後不懐る事

享保五年庚子年正月十二日

一當二月類焼之町家作仕の路次之と居根

仕の町家、あつたし小家掛は勿論 本意に書信
仕の町家之通にありは又法次之に及ぶ事
取上之鴨居亦之物仕附の成 其用之に作事
一類焼以路次之居根不仕路次通に 此家並
仕付の場亦しこの成に小々様し處を路次通に社を
路次並に居しと教て中々事

一當二月類焼之町家之外前之類焼之町も路次
居根不仕路次通に 此家並に仕付路次通
りに社に放てり

一前之類焼之町に法次之と居根仕の成あり
而して道通に 其意に書信に 其に道通を得

致此之尾根并秋冬之取致次口产斗之致略居本
之より一切是並申召致之致次之奥子意亦示
て之の家を杯住居之致致次を門に申ひ来り致
る致次之上尾根并之り致之外迷惑之取致有
之り之致細之纏固を徳を良を不之り之り心
事

一本筋下谷筋分出之音山風高柳系土子之内
飛空之り致防下之取前方中後之組合申門之
外町之り致防系土子之内風服之町之り風下之
町之り人数差出飛火之り致防之り維之海字
此門之内本河所馬倉下造風下之音之奥略町松
枝町造不修之町作之官所神田富山下松田所自壁
町造預目所銀法所造計百之町之風下之人数
之り心防之り此外之町之り風下之音之風筋之
合来引組合之外之取風服之町之り人数指心
下之り

但前書之町書之格式を十付、事之り此所
之り限り飛事之り之り心

- 一筋透橋分西方本銀所土子之内之り風下之り亭
- 一本銀所土子之内之り飛火防之り飛火之り風
- 筋是合用上風服之町之り人数差上下之り
- 一筋透橋分東方柳系土子之内之り心之り亭之り是

又本報河通土子内なる中以下谷浅子町上之町、
其風脈之町を防了中、

一本報河通土子内中分出之町中、中橋廣小路なる
風上風脈之町人分人数出防了中、

但中橋廣小路に南分出之町、中橋廣小路

と防了中、

一南風分出之町、北風、南、北、向、能

之場、南、北、風脈之町、人数出防了中、

一場、南、北、人数、支配、名、主、なる、也

欠付、小、名、主、とも、名、主、之、他、之、支配、人数、

精、心、一、佛、了、中、付、名、主、とも、支配、町、人、共、入

一、事、了、中、付、了、也

一、浅子川向本所之方、風、下、之、名、主、同、前、之、名、主、

小、名、主、通、風、脈、之、町、名、主、^音、高、木、村、仕、通、也、也

一、事、了、中、付、了、也、以上

享保五庚子年正月十一日

右、享保五庚子年正月十日、中山、中、所、名、主、出、向

所、名、主、大、同、越、前、名、主、探、出、列、所、名、主、町、名、主、入、向

所、名、主、上、同、月、十日、右、通、所、名、主、獨、有、也

享保五庚子年二月晦日

甘、尾、監、瓶、役、事、者、付、名、主、目、録、百、文、

毎月七の日は 仰付所お出来付届き申
由に候上候申事申付候中より申上申付
届共候上申事申付候中より申上申付
申上申付候中より申上申付候中より
申上申付候中より申上申付候中より

享保五庚子年三月十七日

出立の節火元之何之七の人教名持之控人
之七候申事申付候中より申上申付候中より

朱引御合町之七の申上申付候中より申上申付候中より
申上申付候中より申上申付候中より

申上申付候中より

右一趣あやまらば、度々お觸り申上申付候中より申上申付候中より
申上申付候中より申上申付候中より

享保五庚子年三月十七日

享保五庚子年三月十七日

日書加へ

出立の節御合町之内に御所申上申付候中より申上申付候中より
申上申付候中より申上申付候中より

享保五庚子年三月廿日

火事の旨防方と儀付去る年組合も概り不
他組へ入交りし事場も組合迄存し概り不
人数散り故防方不意に旨付後他組を割注
繪圖を附し旨付とある事是所人足固即
之旨め町敷組合と多しあり纏斗申或は是申
申付防方と控別紙を後以旨付諸書記纏斗
申す事ありし旨付合の繪斗上纏斗者一吹
流に旨付上旨付見し條一申す宛居所可仕
山事

目下纏斗十旗の儀、組合も概り不
能方と控別紙を後以旨付諸書記纏斗
風節を附し旨付合の繪斗上纏斗者一吹
町、この二不纏斗を目下、致し子連一酌の旨
集火移りし後防方、事

享保五庚子年六月廿日
於町中にて纏斗信し旨付合の繪斗上纏斗者一吹
此の旨付合の繪斗信し旨付合の繪斗上纏斗者一吹
享保五庚子年八月廿日

右の旨付合の繪斗信し旨付合の繪斗上纏斗者一吹
町火消人足固即 旨付合の繪斗信し旨付合の繪斗上纏斗者一吹
この旨付合の繪斗信し旨付合の繪斗上纏斗者一吹
何れも概り不 旨付合の繪斗信し旨付合の繪斗上纏斗者一吹

付五箇月

享保五箇月二十日

水道善後之儀唯今迄無元町人之五對
善後亦取地敷も有之小向落、輕交善後
も道を行く中出積園治中、
水道水助の爲見分寺社並町、
不致見分儀、
加し酒町、
加し酒町、

享保五箇月二十日

徳科、
此水善後土佐名、
以上

享保五箇月二十日

一 國、
役所、
見分、

一新船造、
一 所、

如期此度内書付し方得る意面之支配母持
其母方之とも人知度了中法形の上

享保五子年十一月廿日

木村三石兼門

遠居伊左衛

同専了左兼門

享保五子年十一月廿日

覺

一 細合之内堅大持行り

持動人 長七人

長七人

一 河橋北知り

持動人

長七人

一 横懐の上之細合之内徳付小持のありて書記
文之たし通

東

何町分何町と

南

何町分何町と

西

何町分何町と

北

何町分何町と

此細合何給何町

一 豊持ありて纏持し北知り斗と一級書記の文
右と通

維新の町年・大車阿の時の久集の

巻之三

維新の時後目に集訪念の事
維新の時後目に集訪念の事

維新の時後目に集訪念の事
維新の時後目に集訪念の事

書記の事

一 石のりりて何れ地と致文字白の抄録
此文を随分とすべし

一 唯今と有しは後大清人迄の向後

一 尚ほ分火清の故存又を維新の故存
出さく諸國書付不有しは官に集て去る

一 町大清の候唯今と致すは清の故を止高月
高島屋市石集の方とて中清の道向後

一 至る迄急度ありて中清の向後自り者中
清の故を止高月高島屋市石集の方とて中清の道向後

一 九月朔日の急度ありて中清の向後自り者中
清の故を止高月高島屋市石集の方とて中清の道向後

一 中清の向後自り者中清の故を止高月高島屋市石集の方とて中清の道向後

一 中清の向後自り者中清の故を止高月高島屋市石集の方とて中清の道向後

通朱引外一切指出
少納之方法使番方其外は役人方は其圖言是
非朱引は其物控申中ありしは、其は役人方は
以名を得て承取上細合掛りて其方力前入在
局人及申上其心大纏て其引之れ一切指出
中より

右の略方官紙子の書紙は所後引十中御
享保五
享保五

享保六
享保六

- 一 葛蒲甲立物申留事
- 一 鉢形紙何枚すみぬりにのり紋ある紙は
丹胡粉録音のふり粉色を事
但織物類は包中台事
- 一 銘長の紙並申事
但人形類は申事

右紙は葛蒲甲なりと云ふは、其は、
信右衛門是又藤相なるは、唯今引は申事
是れ以上

丑四月

右之通先達と町奉行の渡り合はるる所
高年之儀は町奉行の取立に依りて高
等仕立に依りて一切定むる外は
年よりとあるは通るる所あり

享保六年五月七日

一 破魔弓

一 金銀の飾り金銀の用は人許に
了りて熱解苦痛甲の了りて

一 羽子板

此の羽子板は成羽子板を採自今
の羽子板は取方結構は自今

一 雛

八寸の上へある所用は手
の多分は手廻り板に依りて

一 圓形法道

和子地を白濁時給所用は
りて黒澤土にて作る金銀

一 子供力遊小形人形八寸上仕

一 十段の物と歌の此作は物
銀の彩色金入系統子おし
高載の或下完載の檢別
上載の作

里物活用いし一 部と接接不付官事し
有通来官正月分名付てある物有来作
物之類高年申高年し候と候し候中候事
年より有合はるる候事高年候に候て候
止事

有通来官正月分名付てある物有来作
物之類高年申高年し候と候し候中候事
年より有合はるる候事高年候に候て候
止事

丑上之月

享保六年辛丑年九月

費

一 町中ありし町代に候自今ある事、先上り
依上番下番名付る事、先付町代に外子候
事、先付町代に候自今ある事、先上り
事、先付町代に候自今ある事、先上り
一 町中ありし町代に候自今ある事、先上り
依上番下番名付る事、先付町代に外子候
事、先付町代に候自今ある事、先上り
事、先付町代に候自今ある事、先上り

随分火移り多し其様なる所とある所あり
為其前指中流川の上

世十二月

享保七壬寅年二月十日

酒犯取一乃服指する人小社付、その

事

一 其主人ハ預金付られ其の平癒は申療
治代七廿三日、藤原代出、その記の、刀
指指水上、酒犯人を主人ハ其後事

了中事

一 右藤原代底多事、家より中、小性、病、い、記
武放後、侍を、金、金、両、足、程、中、同、銀、を、枚、お、指
し、了、中、事

酒犯主人を打擲せし事

一 右同断、但、刀、指、水、上、為、に、身、上、限、正、徳、道
具、上、打、擲、途、中、力、の、と、事、了、中、事

但、右、酒、犯、主人、断、事、申、上、後、申、事、
主人、方、を、其、事、事、三、日、内、申、事、
了、中、事、了、中、事

右二條所人を刺穿舎中付次中同断、但主人を

いふがあらん御一り申事

酒犯多し遠道具控者あり事

一 巡親心長を控告し若くとも世控なり少し
との身上控り申付事

寅二月十一日

享保七年寅年七月

町中佛の建立大八車より引歩行の事往還
に船を以て御引別り多し者由以年有難曾
る出から取れり名をよと人申治し

七月

享保七年寅年八月十五日

町中小おわく際一 遊女は停止し方前と成お
解し今以てお止る由玉柳自今申捕り右
に通申付候ありてありし

一 隠し遊女高き候の店に居るをいふに成生
兼家財宗流と申し 公候、水上等申、

但遊女高き候に以て高人の家財子孫水
上百日し手鎖あり所は預主隔日に東京改
一 地主と申、其の家をゆりて其家より石の敷
但家書と家財を越水上百日し手鎖し候に

預金満白の村平改

右今日公三十一日遊山に役人共新考京所よりお
廻り申遊女に高きお名改百捕りて有し通
り申付て然共生食しお名改味上遊女持て去人
と死罪流罪に成り申家守五人總て是又を食し
取らざるに有し准重り申付海より一のありしお名
其旨のし可申の福知りの也

寛八月十日

享保九甲辰年九月

婚配の御石碓を打たるる所可觸

一 町方多婚配の御石を打たる障りありて打破り
理不度成仕形あり由ありし御石碓府自今在
之歎ありて一の遊捕月書し番取らる遊の事
此差生御之打捨事し後日主記あり名主
五人總て遊夜申付て付合町中への福知意也
九月

享保十四己酉年十二月

頃日ある事有偏ありて由ありし御石碓
此旨のし可申の福知りの也
小差ありし事度は御付条付合町中

付与後志を尋させ不出れば、手鎖を借對本
を以て對本を以て其上尋出れば、其後人を以て
人の事一成就して、其後人を以て手鎖を以てし
し尋出れば、其後人を以て手鎖を以てし
手鎖を以てし尋出れば、其後人を以て手鎖を以てし
少給の方の借人の事一成就して、其後人を以て手鎖を以てし
手鎖を以てし尋出れば、其後人を以て手鎖を以てし
手鎖を以てし尋出れば、其後人を以て手鎖を以てし

寶曆九年十一月

町の家元後賣買并徳波おき常所礼に定前

一 分一合百兩付金銀為
但此方より内山所より、其後人を以て手鎖を以てし
町の家元後賣買并徳波おき常所礼に定前

一 町の家元後賣買并徳波おき常所礼に定前
但此方より内山所より、其後人を以て手鎖を以てし
町の家元後賣買并徳波おき常所礼に定前
但此方より内山所より、其後人を以て手鎖を以てし
町の家元後賣買并徳波おき常所礼に定前
但此方より内山所より、其後人を以て手鎖を以てし

許ありし女等の類又老人病人の如きを其を
とらざるよりしてはか付く事

一 近き所にて遊女の類を其よりして其の如く後停
止せざる事

附多といは居る事と申すは或高貴も侍
類に各別し事と申すは其高貴者も侍
ハ制外たる事と申すは其細能く事
ハ事

一人宿願念の事以後に遊女友者の多矢ふ
して放らざる事 其の如く後停止せざる事
事の如く何れも其の如く後停止せざる事

人名抱り極つて其の如く事

一 遊女の信屋の事前に停止せざる事 近
年遊女の信屋数多あり由あり其の如く後停止
せざる事

三月

年々不気

徳政人夫下一号之事 向後其停止し其後老
中年書列其事

七月廿一日

寛保元年辛酉年十月

- 一 ます 正月廿六日
- 一 生鱧 十月廿六日
- 一 高菜こ 九月廿六日
- 一 鴈 十月廿六日
- 一 つくこ 九月廿六日
- 一 生椎茸 正月廿六日
- 一 ます 二月廿六日
- 一 根芋 四月廿六日
- 一 白瓜 五月廿六日
- 一 六十月廿六日
- 一 松茸 八月廿六日
- 一 一斗 九月廿六日
- 一 一斗 十月廿六日
- 一 一斗 十一月廿六日
- 一 一斗 十二月廿六日
- 一 一斗 正月廿七日
- 一 一斗 二月廿七日
- 一 一斗 三月廿七日
- 一 一斗 四月廿七日
- 一 一斗 五月廿七日
- 一 一斗 六月廿七日
- 一 一斗 七月廿七日
- 一 一斗 八月廿七日
- 一 一斗 九月廿七日
- 一 一斗 十月廿七日
- 一 一斗 十一月廿七日
- 一 一斗 十二月廿七日
- 一 一斗 正月廿八日
- 一 一斗 二月廿八日
- 一 一斗 三月廿八日
- 一 一斗 四月廿八日
- 一 一斗 五月廿八日
- 一 一斗 六月廿八日
- 一 一斗 七月廿八日
- 一 一斗 八月廿八日
- 一 一斗 九月廿八日
- 一 一斗 十月廿八日
- 一 一斗 十一月廿八日
- 一 一斗 十二月廿八日
- 一 一斗 正月廿九日
- 一 一斗 二月廿九日
- 一 一斗 三月廿九日
- 一 一斗 四月廿九日
- 一 一斗 五月廿九日
- 一 一斗 六月廿九日
- 一 一斗 七月廿九日
- 一 一斗 八月廿九日
- 一 一斗 九月廿九日
- 一 一斗 十月廿九日
- 一 一斗 十一月廿九日
- 一 一斗 十二月廿九日
- 一 一斗 正月三十日
- 一 一斗 二月三十日
- 一 一斗 三月三十日
- 一 一斗 四月三十日
- 一 一斗 五月三十日
- 一 一斗 六月三十日
- 一 一斗 七月三十日
- 一 一斗 八月三十日
- 一 一斗 九月三十日
- 一 一斗 十月三十日
- 一 一斗 十一月三十日
- 一 一斗 十二月三十日

寛保元年辛酉年十月
 一 ます 正月廿六日
 一 生鱧 十月廿六日
 一 高菜こ 九月廿六日
 一 鴈 十月廿六日
 一 つくこ 九月廿六日
 一 生椎茸 正月廿六日
 一 ます 二月廿六日
 一 根芋 四月廿六日
 一 白瓜 五月廿六日
 一 六十月廿六日
 一 松茸 八月廿六日
 一 一斗 九月廿六日
 一 一斗 十月廿六日
 一 一斗 十一月廿六日
 一 一斗 十二月廿六日
 一 一斗 正月廿七日
 一 一斗 二月廿七日
 一 一斗 三月廿七日
 一 一斗 四月廿七日
 一 一斗 五月廿七日
 一 一斗 六月廿七日
 一 一斗 七月廿七日
 一 一斗 八月廿七日
 一 一斗 九月廿七日
 一 一斗 十月廿七日
 一 一斗 十一月廿七日
 一 一斗 十二月廿七日
 一 一斗 正月廿八日
 一 一斗 二月廿八日
 一 一斗 三月廿八日
 一 一斗 四月廿八日
 一 一斗 五月廿八日
 一 一斗 六月廿八日
 一 一斗 七月廿八日
 一 一斗 八月廿八日
 一 一斗 九月廿八日
 一 一斗 十月廿八日
 一 一斗 十一月廿八日
 一 一斗 十二月廿八日
 一 一斗 正月廿九日
 一 一斗 二月廿九日
 一 一斗 三月廿九日
 一 一斗 四月廿九日
 一 一斗 五月廿九日
 一 一斗 六月廿九日
 一 一斗 七月廿九日
 一 一斗 八月廿九日
 一 一斗 九月廿九日
 一 一斗 十月廿九日
 一 一斗 十一月廿九日
 一 一斗 十二月廿九日
 一 一斗 正月三十日
 一 一斗 二月三十日
 一 一斗 三月三十日
 一 一斗 四月三十日
 一 一斗 五月三十日
 一 一斗 六月三十日
 一 一斗 七月三十日
 一 一斗 八月三十日
 一 一斗 九月三十日
 一 一斗 十月三十日
 一 一斗 十一月三十日
 一 一斗 十二月三十日

寛保二壬戌年六月

佐渡守殿に仰渡

酉十月

古岡付口

別紙之通去月十月迄願中付矣、右在極之北
ありては

但其所之品、所分、秋之類、唯今迄迄通可
は、心、許、

右之通、了、良、細、尤、西、丸、在、目、付、は、成、可、以、通、也

六月

寛延元戊辰年十二月

近來非人、古武士方所、方々祝儀、費、甚、良、祝物多
少、之、後、人、之、志、多、く、定、り、の、美、年、し、り、祝、儀、し

鳥目、亦、少、く、在、り、は、彼、是、祈、り、の、事、一、可、儀、を
中、押、り、過、之、し、祝物、了、得、方、致、能、由、在、候、へ、不、得
外、其、外、官、地、也、お、お、之、願、之、事、指、し、男、子、は、
非、人、と、も、大、勢、付、係、在、候、之、事、目、好、し、り、由、也
可、無、礼、也、極、不、得、之、事、向、儀、非、人、と、も、之、美、祝、儀、
費、少、儀、在、候、也、一、年、し、り、の、美、年、武、士、方、町
方、外、往、來、一、對、し、り、も、右、候、之、事、礼、多、く、極
小、屋、敷、と、も、一、中、官、之、趣、心、好、し、り、由、也、一、中、付、也
儀、多、く、在、候、門、非、人、願、善、士、相、在、候、心、中、付、在
之、事、也、御、儀、を、長、在、向、儀、知、度、中、付
右、候、之、不、得、之、事、極、之、儀、為、後、日、何、の、事、也

年号不知成二月廿百

布梭町三丁目

伊兵衛店

勘弥

其方儀布梭町五丁目高野弄妓芝居在後仕年
此地代金手付布梭町五丁目家主
清八外八人地主之成去々七月有此地之主付引
拂付地芝居退轉致此之難後有白山波草
尾河河原地而内清清芝居無行取度尤同
町芝居羽衣東門堀町勘三丁目惣合此地近所
芝居取立山手成障り此等芝居中芝居右端
所之芝居と芝居元山極有難其於昔月尾
河原芝居取立之儀難有成於又布梭町之芝
居取立之儀有難其於今一月也

麴町平川丁三丁目服

布梭町四丁目裏上

納地町地

善兵衛店

川原崎権助

其方儀布梭町五丁目高野弄妓芝居在後仕年
此地代金手付布梭町五丁目家主
清八外八人地主之成去々七月有此地之主付引
拂付地芝居退轉致此之難後有白山波草
尾河河原地而内清清芝居無行取度尤同
町芝居羽衣東門堀町勘三丁目惣合此地近所
芝居取立山手成障り此等芝居中芝居右端
所之芝居と芝居元山極有難其於昔月尾
河原芝居取立之儀難有成於又布梭町之芝
居取立之儀有難其於今一月也

之後每錢式書文以善者下市又以勸小芝居
北建山以爲寺芝居亦休之一市分亦務所爲
芝居者免其稅其於以存部之通中付也

戊二月廿一日

右之趣令居丹波守殿直其園之趣於評定所地
田能後寺野りる河人於在役屯池田能後寺中
源也

寬政元己酉年二月

覺

- 献上物出さし之巾小結拵成菓子入在之唐
糸花之類是月之事
- 献上物之袋上之桐之金銀之金物各用之事
- 新撰之海邊仕出菓子類且又唯今迄拵成
とらるる江州向後是月之事
- 此事既終即中結拵成用之事拵成之端と
金銀之類用之事
- 能之將衣束其結拵成とある之山石者其山石
ハ板別向後拵成之事
- 在馬より昔蒲甲束帯と云ふ是も亦道長
結拵之付る由以白紙付袋より香分置る事

入る不既遊物と全銀と金物用箔全砂と款用
召為の事

但離并離し道長と後高年いふを也指中
召是の事同年分書付し通てある事

一女いし一掃かとのい全銀といふ物多
給敷衣結掛成仕方多申し事

在所用と申すは別は外を望指中召取但定
し給掛掛の事者しは可也は所取の事
是國控ある日との由事一礼

享保十一酉年二月

倒死病人水死を異死連子有る言はる前
分訴也此申すは葬衣服あり京徳自今芝口所
川岸と申すは内札を立す事案心ある者も
のい石札場へ其越文を見しるは親類由縁と若
く病人或死骸川流ならぬ事又は怪交儀も
有る以味取らるもの礼建立事行取可得
也

二月

右道所申すは獨知の事也

享保五乙亥年七月

上野仁王門前町に南側とも只今迄して向ふ
此處に又丈夫成澤家造と記し書居るものあり
多末迄澤家造と付火除の宣紙も付り且又
火の事心通ふものあり子中より成る者
成る付、尤澤家造と記し火除の宣紙も付
夫成家造と記し火除の宣紙も付
新島河原町

七月

寛保二年戊申七月十日

陽政考殿付書 此日付

此度武家方陸人共大騒動一回共普段町共
押込向ふ水 公儀と不将仕方共不他
付天の仕仕重中付 向後陸人共い勿論外
好々事の中何れのものあり、中行向
台連可也着手之余り少くあり、下海七捕方共
公捕可掛味付町中一町一町一町一町
七町一町

右之趣可也和紙

七月

寛保二年戊申七月廿五日

徳心書版出渡

此圖付也

付後或方方陸人共大勢合一向其間可市村相
 存其心芝居に押込後之打之也一芝居者板并
 着不押仰り
 云候と不押付方亦之不仰
 至極付夫之法位置中付陸人共大勢合徒當
 此後其意と云事子之由之其以有留我板等と云
 聖取押子中事起り其後大以流洲之車行所
 許也其及之方共事不仰と仰り此付後名後終り
 不仰付後大勢免之不及其候も候之由事以
 前之由之方共候人者終合之由人割込付
 陸尺中し入心云出候と云事由心付畢業只
 今迄陸尺付仲々百と立置候中今事
 事書取候者仲々百抄と成り付不仰心
 茂多是非中合候付成候付不仰候
 小且又物言事之間之事陸尺一於付先融
 厚と云何と云事類者門前ある仲君之外陸
 尺事物と云事此付時分陸尺中即陸尺成候
 主物と云事立不仰候者由付候事以別
 子不仰と云事不向陸尺人云不仰候者由
 候又之難由中事貴候由候於立し由人
 其不及中事其迄急後曲事、之由付
 但右陸尺其切果之由由事、左候に在

おろしは願ては代官私願領地改入致し上素
人共其の合角力有僅其外祿事おし言し角力
無行いししを早竟先年より後其志例
るは無行し付見物しは諸群集ゆへに
為困ふししは是より本入を建札候も請取
其向後其用して所尤勸進角力無行候し
し角力濟世しものこと人對談し上僅し其格
別し事しは台を遊ある時在りしこと其
多し其可致し
右に趣印しあること其後其西丸古目付人茂
この有通達し

明和三年十一月十日

壹岐守殿に渡

一 諸藏人交領書 勅許の老老健目不亦於父
或祖父蒙 勅許の交領書其子孫名系に其
とも有しは趣 其後其在其に其者しし
向後國名官名も時分し其名系に後其用其
尤健目之交領書其氣に健目次其し其
以

右に趣印し代官私領地頭よりし其後其

十一月

安永八亥年八月廿日

遠江守殿出渡

一都下所之地信店借りのもの多き事等々申上り家主は
此地信人店借人等事等々申上り此方孝南
と申す浪人もの多き事等々申上り別入念出上り
とく申す此信貸り申上り縦武家之家事申上り
所家之位申上り町並の家作と政事申上り
町家不事候し家作申上り此所且高利金杯
貸り申すもの有り或堂上方花武家之名目を信
り家主申上り住居申上り有り此所堂上方家主

と申す政事取旅宿居申すもの有り此由を候家
主分中申上り若此方事候し此所申上り知し
其家主急候し申上り候し
右之趣所之申上り候し申上り候し

八月廿日

寛文八申年三月

一法扶持人之所人刀さし候し此所 此方事候
法候しものは事用し事
附名連下人等又刀を申上り

三月

元文二己年閏十一月

以日夜不入御用ノ書付有之桃灯多ク所中
持歩行由由向後御用ノ外一切灯何事も中
補小若自子用事也此用挑灯為持歩行能
名有之少々召捕以味可多ク能召付合有
得所中不浅様之也中治也

寛保三亥ノ年十月

一 薪膏積之後先手分此積我有之少知近所
ハ所之少々高積積之其上道積出之積也
積之在成由成所不有之自今道之積也
一 積之勿高積之積中召有之

正徳四年三月 七ヶ条之内

一 相言芝居之積及近手或階之階、仕之以前
之由一階之由多由之事
一 積及之由内治道を由之入樂屋又之座元
之座元并茶屋お下座安を志何ら此遊屋之
候之由多由物也相言役志多由是言相言
之由之由或之積敷或之茶屋お下座一切是
誠中召有之尤自今宅中召有之遊屋之安呼中

万石の事

一 相言等、かり何り、をたて仕込美法書用
仕立の時、仕込の好い改事

寛保三戌年五月三ヶ条目

一 火持向る事、商賣、假一切、了るを、用旨、向、
細、此、日、標、お、夜、倉物、火、仕、出、賣、向
る、事、由、五、箇、不、御、此、自、存、堅、く、お、止、す、中、致、悉
極、お、申、上、知、後、了、申、付、事

正徳三乙午閏五月

一 町中、有、む、お、仕、入、る、少、う、或、者、え、り、事
或、者、高、産、者、た、る、事、を、板、行、いた、る、事、以、後、停
止、せ、ら、る、前、に、お、在、獨、此、道、孫、判、禁、ぶ、事、と、申、仰
論、高、分、者、と、事、と、や、つ、今、板、行、又、相、言、お
我、向、後、望、仕、ら、ま、い、着、過、標、お、小、く、上、賣、れ、り、
於、者、し、い、在、所、と、る、お、改、捕、し、月、書、の、書、取、
三、海、出、お、詮、改、上、賣、り、の、不、及、中、改、板、行
此、事、の、急、改、曲、事、付、弄、家、主、五、人、總、追、て、お、越
度、お、尤、總、し、もの、を、追、て、お、改、め、ら、し、付、台、所、中
不、詳、の、細、知、り、の、也

閏五月

元文五申年八月

道中車行
少動定車行

近身人馬多被、被曲人を集めて付合似し
多に由り人捕ふ、且力の七付知り、不持成候
も、此年申年中、付人馬共人馬附、種業、被曲人
候、停止中付、此年

右に趣、此年中、此年、有し、此年、園八、御伊豆、
花、道中、節、多し、書、面、道、多し、私、館、村、方、宿
増、小、家、家、之、代、官、不、減、様、此、年、通、在

八月

寛保三亥年六月

一、於、所、中、所、人、在、相、撲、を、抱、多、此、年、の、集、五、撲、を、五、人、
中、五、人、の、定、言、官、に、お、撲、お、撲、多、い、ま、し、此、年、
之、為、式、多、し、此、の、杯、抱、置、右、類、之、を、相、撲、所、を、
此、年、有、し、此、年、所、人、之、所、合、事、之、所、向、後、
此、年、於、於、所、中、多、此、年、此、年、書、面、道、正、位、元、
年、此、年、此、年、自、之、被、後、多、此、年、此、年、之、有、し、
此、年、此、年、之、此、年、此、年、此、年、
右、之、道、所、中、之、此、年、此、年、

六月

正徳二年五月

奉行所囚人を召連出言又ハ捕方に引見奉行
ハ非人下下りの世階町方少く囚人下控さ
ハ用り酒又は食物好右手下りの世し
控山由ま付ハ角多餘さ七ハ諸事し召向後
除き世中召取め若き奉行所元造賦政方回ハ
お侍の世在し仕形まし召在田舎とある由ハ
ハハ
右ハ趣お召取りの控ましハ當人の御儀と申上

急然ハ令沙所ハハ条仕方所中お弱中ハ

五月

元文二年正月

一 前ハ我々弱前奉札召目用取りの者ハ由不
届ハ我々弱入ハ清原りの世未熟者ハ取ハ
召町ハ我々弱入ハ清原ハ若ハ華階日用取ハ
若りのしハ我々弱入ハ清原ハ若ハ華階日用取ハ
清原ハ我々弱入ハ清原ハ若ハ華階日用取ハ
家目取ハ我々弱入ハ清原ハ若ハ華階日用取ハ

孫太郎門首石集門方八月と名簿に渡す中
一 公儀に由る普請方并法人之請負しもの地物
屋敷方諸日用請負方より火請方或中人之入
りし者并日用生計に越付帳付請負日用産
差名簿を請札請取中

一 十日在井口在月在武士方町方より此出の札請
取に依りて遊請取由不届に由る札に依りて不届中
日切取にりて遊請に札引取急後取持て仕る石
之遊請に在石碯に諸日用入口請負しもの元
日用産入に越帳面取取附取中自分札をも請
取不届中由不届に 公儀に由る普請方并法人

是請負人惣に武士方町方諸日用入口に者并
各遊に日用産入に越帳面、取付自分札を
も請取取に依りて日在不届に取取に依りて又
各名家に取取味自分札ももの有に取又
札取取に請取取に日用産入中心に名取取
に取取取中付

寛延三年三月

於町に毎天秤に候取高取にもの数多者に
此取に毎町に其家業に際りて取取上取取取
ホ取取に取取取書上し取取取取取取取取

之由那山の依之自今無天秤為錢高替を以て
積名之支配限急度了中流の尤向後無天秤
て錢高替のしりしもの者しりし中流の
波の官付旨所：不淺程了中流也

三月

延享四年一月

町奉行に

- 一 所之明地を床見世と外見世物と異物と圍座者之
火除と持取と申す不殊に掛取と申す
- 一 右に拂取の跡の地は後近邊に万石以上又二万石

已下より申す部家屋敷の積支取除を申す申す万石
以下より申す三四人申す但今小控の成在中付に就
言所地に向寄次第了簡て此何れ

- 一 町之中より申す中流に於て申す名主支取に
お控に之申す付に

- 一 只今出所地、居り申す見世物と異物と取取申すの流
世に難言申す、前之通に寺社境内之中流に
お對所申す、借り申す引移り申す申す付に

- 一 兩國控新古橋向所の地は後之に掛取不及唯
今迄より申す申す申す申す申す付に

右之趣て申す申す、寺社境内に申す申す申す

寺社奉行に或書送る可下は如何

二月

延享四年卯年二月

寺社奉行に

所々明地ニ床見世を亦見せしもの奇物お困所有
し小大除之坊物とし官不強五拂小探の中付唯
今右所地ニ居し者渡世ぬ難多し前之通
寺社境内ニ坊物あり對治牙に傳りしを引移し探
了中付方町奉行に亦書し可下は如何と書す

元文元辰年八月

雜説虚説等之文中獨小義存町解

近き以雜説虚説を中々坊物一物となす人
作物落書お流布し一は正々後金銀吹替
ニ雜説を中々坊物義を書付中坊物一物もの
有之不偏玉極ふ自々雜説虚説お中坊物し
小銀義の儀書付流布し可下は如何の者し一子述
所之月番之番取一訴出以味し上各度中付
小若院主外より亦知りし為人不及中家主
五人姓名をよそし可下は如何の條付町中町解
知申の也

元八月

享保十一年二月

一 倒死病人血死在外是死迷子亦有之昔之石
分許出治身年以死衣服おし不認自今是
口所川者少七日之内札を建立し条人あり
有し者右札場之死越文書を見し其親親
由緒之なる病人或は死骸引取度と存志
又怪変候者有し味形存しもの札建
置を行へし証也右趣所申し留知の
也

十月

芝口町川者建札文之事

一 去儿歳日何方之年以恰好倒死迷子病人
衣類何を着し有しものあり首徑水死異死
之者誰よりありし也
自害

月日

- 一 南者 品川分長者亦同茶屋所限り
 - 一 西者 代々木村上落合村板橋限り
 - 一 北者 下板橋王子川尾久川通限り
 - 一 東者 本町村通申川八中在馬町新田限り
- 右持取之内より之者宿務人之外札建す中、

寶永七年四月

一 諸職人内武藏守卜文領名付外中の者一
向後改改銘管少司由意中置以之趣と存所
に職人共一に中置少司

享保十三申年四月

四月条之内

一 御紋附道具之類一切買取中官物一万一千
撥付有之と月書之書所許出是國治所
付事

享保六年同七月

一 兵服法道具書物類之不及中儀高貴物業
子類之も新規に打出し事自今以後堅信
止所之者も捨子細者も役取許出也
を更之仕也事

一 儀高物之内古車之由之車傳出所迄年免
所之物類有之仕也
信止中付出所之書之由之書之由事

三上

閏七月

天明七末年七月

一 都る朱并朱墨之役朱産之御高江振出役
勿論櫻之奏買を難成條前以御高江
知近江田前不知朱賣買取趣等不持
正之出前之御高江通孫高江有御高江
奏買しし一萬一出一の不知朱持年賣
拂高江中若高江一捕高江高江高江
其高江高江高江高江高江高江高江
高江高江高江高江高江高江高江
高江高江高江高江高江高江高江

右之御高江高江高江
七月

天明七末年七月

一 其高江高江高江高江高江高江高江
百回拾之様高江高江高江高江高江
役高江高江高江高江高江高江高江
月高江高江高江高江高江高江高江
印高江高江高江高江高江高江高江
不御高江高江高江高江高江高江高江
役高江高江高江高江高江高江高江
切高江高江高江高江高江高江高江
高江高江高江高江高江高江高江

文之為難得也... 通商船之
家之由... 通商船之
致其尤... 通商船之
通商船之

七月廿九日

天明七年八月三日

本商船... 附松寺...
右之... 通商船...
取之... 通商船...
本商船... 附松寺...

本商船... 附松寺...

但名... 附松寺...
多... 附松寺...
名... 附松寺...

右之... 附松寺...
書上... 附松寺...
其所... 附松寺...
書... 附松寺...

三... 附松寺...

右之... 附松寺...

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

一近自宿國窮之上付米穀別

天曰七未年五月

本陣旅籠屋も賄方も及難義山所信家
之れ御方之内に御之振合之る旅籠屋も
本陣旅行に御成者之趣を以てたてず自
然と御方之支度迄て成事之に本教法を
言出之由に其勤無之支度も御成之趣
を以て旅籠屋も御成之趣也

五月

天明七年五月十七日

一 此書未拂成付人の糧あり申度大豆と刻る糧

之宜也此書未元者持て支度付同仲資上
以味之上支度引之候中付金を以て付上
大豆六斗七八升分有支度取付申上大豆
并七斗部地廻り大豆有之七斗又七斗之
外分有支度決之書指中百有支度取付申
同所中亦支度之申の支度取付申之書出
る申尤大豆六斗外糧あり申元支度見合支
之書指申者有之申之申之書指申之内に
了申也

但方支度を頼む申用申之腹内之障り候人
將書申之申之趣申付申之書指申大豆を頼む

天明七年六月六日

一 米穀正なる事奉付所に改因家取給に其方共

七雜米奉依之に

公儀も是と高と成下難有也 此れに

米倉とも兼外高賣い 此れ共その内

ハ米貯蓄の貯蓄由風國有に込付後町

打毀及騷動に付後難に從と忌し因主事

のものもし由ま事の家上も稔に成り付右

に米所持し者不困主成り賣拂に成り

に松別地為に成り持れりものも員數書出

の事難入に成り成り松別地國に 此れ賣拂に成り

且此方販米未請合にものも是又儲蓄に

米不貯蓄成り賣拂に成り外高賣い

人數等方にも成り皆成り出米方を其元

存貯し者も成り成り入請米も成り其

上高月も成り成り成り新穀も成り成り

先成り成り成り成り成り成り成り

上成り成り成り成り成り成り成り

成り成り成り

成り成り成り成り成り成り成り

成り成り成り成り成り成り成り

成り成り成り成り成り成り成り

成り成り成り成り成り成り成り

未六月の日の

天明七末年

一 此節米穀拂度より江戸所よりものた及飢渴
 難免し趣に付在は故方北斗に依りて在る事
 には 仰付在は伴信事の人等國を往
 たりて冬に換り町に在るは勿論在付
 町に在りのとて味出或は吟味節に在りて
 左事より不及掛合に斗に在るは仰付
 但は所より在る事左事より及りて
 其節に在る事左事より及りて

右に趣に 仰出のり付合町にて未獨知もの也

六月

天明七末年六月

一 此節米穀拂度に付江戸所よりものた及飢
 渴難免し趣に付在は故方北斗に依りて在る事
 には 仰付在は伴信事の人等國を往
 たりて冬に換り町に在るは勿論在付
 町に在りのとて味出或は吟味節に在りて
 左事より不及掛合に斗に在るは仰付
 但は所より在る事左事より及りて
 其節に在る事左事より及りて

六月

天明七未年六月十五日

一 此故米清蔵人教書上之儀是也
之儀ハ有深キ旨仕之儀也
沙法本國山石仕者之儀也
之儀ハ有深キ旨仕之儀也
之家持并身元有徳也
米穀置法之儀也
右之通書ハ人別ニ調子
P. 100 也

六月

米在米門役所

天明七未年六月

一 米麦相換金之付

米四斗

大豆七斗

小豆七斗

右之通書法也 作付

六月

天明七未年六月十日

一 此故米麦買情以上還送車力春賃打詰金

過分有掛り所内も有し各右掛り所也
有し由右甲乙有し終に所役人共し水斗人
を用ひしと不用者亦下は案も法入可掛り物
多し故に或は所内し難き入ともし或は或は
故に事と以りし研致書し筋多し掛り所
之勤年より一斗麦為食方打は年滞り所
此掛り所也

一前書法入用は外に所所地主と為る由
風聞致有し山掛り所一其心持遠し右法
入月勤定し上百万文何程と有る後事
右水斗を以し前買賃人難致し不為成掛り役

人改世話し水斗

右之趣町に不減振可納知者也

六月

半右米門役所

天明七年六月廿九日

一此故米買請切自下は後写の朝日朝五時町
月行事是人之名主は深取却杯組合町
不減振し申通者也

六月廿九日

半右 役所

天明七未年七月二日

一町之古秋米麦代金納之候夜、入山より納方
混雜致し官より在儀も有りと及程美山依
之夕七の時限り、取持糸を納、取所より渡村
より通る也

未七月二日

半左 役下

天明七未年七月八日

一付市所申春米屋方米穀拂底を付下り米
同屋何者八町米件買小綱町堀江町地廻り米
同屋より其外、取付後米穀引請小賣春米

屋外に候時五拾を以賣後其振在支配
り春米屋米為賣人共中流屋より其の
買文不取也、取付後、何れ程も其
通り

七月

天明七未年七月

一三廻目古秋米穀五拾昨九日中納、取町より
内先違言し其指を以代金取違、其指取
者、其式其分り、其前了割、其不
右、取總合町より、其前了割、其不

七月十日

半左衛門役所

天明七未年七月

一 此度追國之始米為法救買上古用伊奈守在米
 之江 仰付下所心收遣壹酒外米屋古也
 有之趣去所於又古当地米拂度之趣何
 之山名壹酒下之古安長是付以後在辨買上
 比七の付了土依古法役所之申出狀
 有之趣之町申之趣知也

七月

天明七未年八月

一 先達之於日本橋藏屋發賣御米太臣代金
 高之内之金一之名之支取限米九月中旬
 止高之金所之申納也

八月

元文四未年三月十日

本阿弥治市石巻所

右之今度

禁裏片殿古用込

多一申動下申

仰付下五月中京幕心

のち多内を人柄不宣ものも仕習ひて不埒
成美も出来ず申山向後人馬を引籠業お
し曲取も後停止し事

七月

元文五庚申年八月十九日

一 町方古觸之趣

諸寺諸社に神木又一上り木之由大木車之引
四下往來之障之致す所 百自今ある所極に
從古昔も不仕作後小太い所後古觸者之由
世能又町觸之者之由

八月十九日

享保四亥年八月十六日

一 近年金銀出入帳之多くなり評定所寄金

節茂計美也取扱公事評定を公事と申す
成評定之本主を其の信金銀買懸りおは
對し申す其の由自今二三奉行所にて滞り
し取扱致すの由評定心之由事と云ふ出
入を不届之由取扱は仕置了申付事
但不届者之由身被取了申付

類之儀之由事

無之由在端所不致出、名主其是國遠少其、
精出傷其秋之為町人其以急後了付異有之
通町之為名名度一合主其死防了中在商賣物不
仕也其難之風烈之時中右之通了其以死生
節之維念少其了有七其持五人教集了中風
年之節之右之節出定有、其大其集其子及其
百是又體了、年之後了其以死防了方之書
付其人教了其在通町了之書付五派其了
了中其以死

白月

享保五子年正月晦日

一家之如他人之勿論維親類之讓後以了了進
町内之不及中一類、其目帳面、改了了、讓後
其儉了、取急打捨並其了及出入除改了上御檢了
於其了、向後其行所、其了、其了、其了、其了
其了可觸其了也

享保五子年正月晦日

此福町申達判

享保五子年二月晦日

一 紺衣並靴紋之申、其了付鳥目部百文之每月

可也... 作付... 廣... 濟... 紺... 尾... 丸... 多... 由... 今... 渡...
 去... 危... 中... 石... 惠... 所... 以... 得... 法... 中... 今... 召... 未... 出... 紺... 尾... 丸... 多...
 也... 年... 所... 以... 召... 未... 出... 紺... 尾... 丸... 多... 由... 今... 渡...
 以... 意... 之... 通... 例... 年... 上... 月... 中... 之... 監... 瓶... 紋... 多... 澤... 之... 出... 丸... 多...
 町... 中... 紺... 尾... 丸... 廿... 六... 年... 始... 事...
 享... 保... 五... 子... 年... 二... 月... 晦... 日...
 法... 嗣...

一方... 保... 千... 五... 庚... 戌... 年...
 江... 之... 川... 公... 助... 危... 形... 船... 之... 次... 牙...

水道橋 龜山丸 井筒丸
 藤去丸 宮津丸
 古腰丸 松葉丸

昌平橋 若市丸 相模丸

和泉橋 高砂丸 去腰丸
 川市丸 湊丸
 柳丸 古腰丸 松葉丸

江戸橋 惠比須丸 千代丸
 布袋丸 湊丸
 川西丸 尾上丸

淺子橋 玉去丸 明石丸 柳丸 永樂丸
 去腰丸 若去丸 若去丸 若去丸
 太田丸 川市丸 柳丸 福市丸

駒形 古和丸 玉市丸 四目丸 若徳丸

木挽所 井筒丸 古河丸 兵衛丸 川武丸 出世丸 林丸 宮本丸 湊丸

伽羅市
言市丸
歡永丸
大恩丸
本市丸

南八町堀
和泉丸
川市丸
夷丸
若宮丸

北八町堀
松市丸
明石丸
總丸
利徳丸

芝金杉
延喜丸
川吉丸
明石丸
四國丸

牛込
玉垂丸
和泉丸
吉屋丸
川吉丸
四國丸
高砂丸

兩替町
蓬来丸
堀吉丸
延喜丸
堀井丸
小市丸

土子落
浪吉丸
永代丸
於丸
市川丸
今市丸
衣川丸

本町河岸
方那丸
東園丸
本所丸
福吉丸
山田丸
今吹丸

後藤河岸
大恩丸
田村丸
薄丸
院丸
右田丸

鎌倉河岸
鎌倉丸
金澤丸

本町二丁目
福市丸
右之九拾九艘也

古之為學也

必先求其本

而後求其末

此其為學之

法也

今之為學也

先其末而後

求其本

此其為學之

弊也

夫學之為道

也



